



▲参加者からの質問に3人が分かりやすく回答(左から小林氏、八巻氏、田口氏)

思いをつないで未来をつくる 事業承継セミナー

2月1日、山水はなももプラザで古河サークル主催の事業承継セミナーを開催しました。

茨城県よろず支援拠点コーディネーターの小林淳氏が講演を行ったほか、(株)つくば食品の八巻大介氏とシューズサロンタグチの田口善彦氏が、実際に事業を引き継いだ際の経緯や課題等を発表。参加者からは「体験談を聞くことで同じ悩みを共有できた」「早めの備えが重要だと感じた」などの声が聞かれました。



▲メモを取りながら秋澤館長の話に耳を傾ける参加者

学芸員が教える古河あれこれ ミュージアムタウンの アートフル・ライフ

1月17日、古河文学館で合併20周年記念古河市民大学ミュージアムタウンのアートフル・ライフを開催しました。

この企画は、古河の歴史や文化、芸術について学芸員が解説する講座で、今回は「古河ゆかりの文学」をテーマに、市出身の作家や文学の歴史などを紹介。参加者からは「古河が登場する作品はたくさん読んだが、また読み返したくなった」などの声が聞かれました。

「なさキッズ・プライド」を胸に 名崎小学校創立150周年記念 式典

11月15日、名崎小学校で創立150周年記念式典が開催されました。

式典には世界的にも活躍されている卒業生が参加したほか、児童による学年発表や茨城県警察音楽隊による演奏が行われ、会場は大いに盛り上がりました。伝統を受け継ぎ、地域一体で発展してきた名崎小学校の今後の飛躍に期待が高まります。



▲この日のために準備を進めてきた学年発表

世代をつなぐ、伝統の味 「鮎の甘露煮」 学校給食提供



▲甘露煮を食べる中等教育学校の生徒と組合長の野村さん

2月9日・10日に、鮎の甘露煮が市内中学校、古河中等教育学校の学校給食に提供されました。

鮎の甘露煮は文化庁の「100年フード」に認定された市の郷土料理で、伝統の味を継承するために鮎甘露煮組合が毎年提供しているものです。鮎の甘露煮を食べた生徒からは「骨まで軟らかくておいしかった」などの声が聞かれました。

県内で一番高い山は筑波山じゃないよ いばらきっ子郷土検定

2月7日、水戸市のザ・ヒロサワ・シティ会館で、いばらきっ子郷土検定が開催されました。

この大会は、茨城県に関する幅広い分野の知識を競うもので、今年は古河第一中学校が参戦し、選抜された2年生5人が仲間と協力しながら難問に挑戦。惜しくも決勝には残れませんでした。郷土への愛着を深めるいい機会となりました。



▲練習の成果もあり、問題冒頭で答えを見抜き見事正解

大切な人に届ける感謝の気持ち 大人の絵手紙茶話会



▲講師の八木氏から配色のアドバイスをもらいながら作成

2月7日、古河文学館で大人の絵手紙茶話会を開催しました。

参加者はバレンタインをテーマに、絵の構図や色の塗り方などを学びながら、大切な人へと贈る絵手紙を作成。完成後はそれぞれの作品を鑑賞しながら、古河文学館の落ち着いた空間で、バレンタインにちなんだ和菓子を堪能しました。